

2022年度第4回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2023年1月19日（金）18:00～19:30

会議の場所及び方法：WEB会議（Zoom）

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、中村隆夫副会長、大村雅一 常務理事、中村和哉 理事、
石川彰 理事、井上貴支 理事、安田大助 理事、船澤泰隆 理事

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、
坂口城治 通信委員長、日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長
中山遼平 キールポート強化委員会事務局長（代理）

服部好彦 ジャパンカップ委員長

坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

議事

（1） 外洋団体長会議（1月29日）内容・資料確認

大村常務より、外洋団体長会議の開催について以下の説明がなされた。

大村：外洋団体長会議は1月29日10時より、ジャパン オリンピック スクエアで、WEBとの併用で予定している。

議事の概要は外洋系の2023年度の方針として、外洋レースの振興やセールナンバーの普及、そして馬場会長からヨットクラブや泊地とのグループとの連携を強化し、それを艇に日本のヨット界を発展させていきたいとの話を頂いているので、それらの説明を予定している。会長自ら各地のヨットクラブ等を訪問して、意見交換をしたいとのことである。

次に加盟団体規程についての意見交換を予定している。

それに加え理事選出方法の改正案についての説明と意見交換も予定している。外洋常任委員会の報告では、外洋ダブルス、小笠原レースの概要、シーサバイバルトレーニングの状況、BANの加入特典、海上保安庁との連絡調整強化についてを予定している。

次に各専門委員会から、団体長会議で説明する内容の概略が報告された。

- ・外洋計測委員会

川合：証書の発行枚数等について。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：セール No の色等について。

- ・キールボート強化委員会

中山：学生マッチレースの支援等について。

- ・外洋艇登録事務局

小山：艇登録手続きの説明。

以上の報告の後に、大村常務より、各団体からの報告、意見交換、2023 年度の外洋系の日程表の報告をすることの説明があり、早めの資料提出の依頼がなされた。

(2) 外洋合同委員会 (2月4日) について

大村常務より2月4日午後に東京夢の島マリーナにおいて、WEB 併用で開催されることが報告された。

(3) 各委員会からの報告

- ・外洋計測委員会

川合：現在重量計をキャリブレーションに出している。

証書の発行枚数は、IRC350 枚、ORC50 枚を予定している。

日本一台湾レースが IRC を採用することになる。

予算要求は、近隣諸国との連携・普及活動の経費として 20 万円を計上し、収支が 24 万円の赤字となっているが、バナー広告の収入で最終的に赤字を 4 万円に減らす予定。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：アドバイザー派遣を予定し、そのための予算を要求している。

ルール変更についての周知を予定している。

- ・キールボート強化委員会

中山：学生マッチレース、英国のチームレース参加、ユースマッチレース等の支援を予定し、キールボートパーク対抗レースを計画する。

- ・外洋常任委員会

大村：セールナンバーの普及拡大事業、オフショアレース支援と世界選手権への派遣、外洋ダブルス日本選手権の 5 月開催、加盟団体との関係強化、泊地やヨットクラブとの連携を進めたい。

外洋艇の安全確保、事故対策、法制度についてはサバイバルトレーニングを中

心に色々なものと合わせて、法制度の改善、海上保安庁との連携を強くしていくことを予定している。海洋環境保全普及事業を新しく進めて行きたい。

シーサバイバルトレーニングは2月24日から3日間開催の予定をしている。外洋ダブルス日本選手権2023は、今年は5月1日スタートで昨年と同様に計画している。

小笠原レースは4月23日スタートで公示が発表されている。

安全のためにBANの活用を勧めていきたい。

- ・安全委員会

平出：WSに問い合わせたところ、2023年1月のOSRの改訂は無いとのことなので、翻訳はしない。

RRSがアプリ化されているので、OSRも同様にすることを考え、予算を150万円要求している。

合同会議は2月4日に夢の島で開催予定。

- ・国際委員会

船澤：ワールドセーリングからラントゥセールがリリースされている。

新しくディンギーを学ぶ人に展開することを考えている。

- ・ジャパンカップの動向について

中澤：参加対象艇のオーナーから意見を聞いた。再度2月8日にZoomで会議を開催する。ジャパンカップ開催規定があるが、開催基準等の見直しが必要と考える。各専門委員会には相談に乗って頂きたい。

(4) 各水域報告

- ・北海道東北水域

石川：前回の報告から新しい報告は無い。

- ・関東水域

井上：コロナ前と同様に例年通りに行われている。

レースの日程調整が行われ、毎週レースが行われている状況。

- ・中部水域

坂谷：去年は8割のレースが行われたが、今年は100%のレースを行いたい。会員の減少を防ぐために活動を活発に行いたい。

- ・関西水域

安田：KYCでは11月に木村君が最年少で世界一周に出発したが、途中で断念して帰ってきた。

堀江さんがアメリカのセーリング団体から表彰を受けることになった。

- ・九州・沖縄水域

(沼田理事が欠席の為、メッセージを大村常務が読み上げた)

大村：玄海、南九州、沖縄とも年末は3年ぶりに表彰式、パーティーを行った年明けには新年会と例年の各水域の懇親会をこなせた。南九州においては1月15日よりクラブレースを行っている。

3月4日、5日には九州ヨット協議会を長崎にて開催の予定。

(5) その他

・大村：「IRCを取らないとORCを取れない、2024年からORCを無くす」という情報について問い合わせがあったので報告を頂きたい。

今までの方針は、日本でのレーティングはIRCとORCの両方だが、IRCをメインとする。レースはIRCをメインとしたデュアルスコアリングを推奨している。

というものである。

川合：IRCを取らないと、ORCの発行をしない、との情報が出回っているが、これは委員会内の検討意見であり決定ではない。

JSAFとしての方針を出してもらいたい。

大村：日本でIRCに一本化するという状況にはないと考える。

方向を決める前に、外洋常任委員会、団体長会議で意見を聞いて方向を決めて頂きたい。

大村常務が意見を求めたところ出席者から様々な意見が出され、決定するのは団体長会議であるので、次の団体長会議で丁寧な説明をして意見を聞くこととなった。

・坂谷：外洋ダブルスと小笠原レースの主催者がいない、JSAFが主催するのであれば、レース運営規則の一部を変えた方が良い。

大村：次の機会にレースマネジメント委員会に検討をお願いします。

小笠原レースは現在共同主催に手を挙げているのは日本オーシャンセーラー協会であり、関東4団体は協力となっている。日本オーシャンセーラー協会から共同主催の申請を出してもらおうように考えている。

最後に中村副会長の閉会の挨拶で19時30分に閉会となった。

以上